

インタビュー

セバスティアン・ボネさん (フランス・ブルゴーニュ出身)



出身はフランスのブルゴーニュ地方、スミュール＝アン＝オーソワという町です。人口が4,000人程度の町ですが、有名な城壁や大聖堂がある観光地です。小さな時は、読書好きな物静かな子供でした。小学校では2回飛び級し、高校を卒業した時は、まだ15歳でした。その分、他の人より早く様々な経験を行うことができました。フランスの飛び級制度には、国内でも賛否両論ありますが、私は利用して良かったと考えています。日本語には、高校のころから興味を持ち始めました。英語は高校時代に勉強し、結構いいレベルになったので、他の言語にも挑戦しようと思いました。そして、漢字が入っている言語を勉強してみようと考えました。このときはまだ、東アジアの言語がすべて漢字を使うと勘違いしていました。少し調べたら中国語と日本語だけとわかり、オンラインの教材が充実していたので、日本語を独学で始めることにしました。都会に住んでいるフランス人の若者達は、アニメなどの日本のポップカルチャーに興味を持っていましたが、私はそれほどではありませんでした。

日本には、大学のプログラムを利用して1年間留学しました。留学先は沖縄です。日本に留学する、というと、大都市に住んで毎日2時間電車に乗って通学し、高い家賃を払ってという印象でしたが、沖縄の大学は、すぐ近くに寮があり、とても便利でした。その後は、台湾の高雄市に行き、フランス語のALTとして1年間働きました。帰国後、さあ今後の進路をどうしようかと考え、INALCO（イナルコ、フランス国立東洋言語文化研究所）で勉強すること

にしました。フランスでは、学んできたことと職歴にきちんと筋道が立っていないと、社会や企業で評価されません。ここで勉強すれば、今まで私がアジア諸国でしてきた経験を学歴や資格に変えられると思ったのです。INALCOでの勉強を終え、就職活動を始めたころ、JETプログラムの募集がありました。フランス人の採用枠は、いつもそれほど多くないのですが、その年は募集が多く、またINALCOから推薦文を書いてもらうことができましたので、応募しました。2016年2月の事です。同年の5月に採用され、8月に静岡市役所にやってきて今に至ります。

静岡市役所では、MICE・国際課で、主にヨーロッパの国々との連携業務に従事しています。静岡市の姉妹都市であるフランス・カンヌ市との連携や、2020年に日本で開催されるオリンピック・パラリンピックに合わせてのスペインチームの合宿誘致事業がそれにあたります。その他、静岡を訪れた外国の代表団のアテンドも行います。また、私はスペイン語もできますので、フランス語圏・スペイン語圏のSNSを利用して、静岡市の魅力発信も行っています。

今の仕事の任期終了後に考えているプランが2つあります。第1希望としては、東京のフランス大使館で、1年間か2年間働くことです。フランス外務省が提供している、日本語ができるフランス人の若者向けの登用制度があるので、それを利用してみたいです。第2希望は、これまでの経験を活かし、企業向けのコンサルタントの仕事をしてみたいです。それらが駄目なら、ペルーのアマゾンに行ってボランティアでオウムの調査活動でもしようかな(笑)。結婚して家庭を築くのであれば、西ヨーロッパに滞在したいです。西ヨーロッパほど家族にやさしい地域は無いと思います。ドイツでも、イタリアでもスペインでもかまいません。ただ、私は、フランス国民が国に納めた税金などのおかげで教育を受け、育ててもらいました。今度は、私が今まで培った能力で、フランス社会に貢献できればと考えています。

『異文化コミュニケーション体験フェア』順延のお知らせ



10月22日に開催が予定されていた『異文化コミュニケーション体験フェア』は、秋雨前線による長雨と台風21号接近のため中止となりましたが、先日行われた同フェア運営委員会において、順延することがまりました。日程は3月4日（日）で清水地区での開催を予定しています。詳細が決まり次第、協会ウェブサイト及びFacebookでお知らせします。